

# シラン



## ■シランのプロフィール

学名： *Bletilla striata*

科名：ラン科

分類：多年草

原産地：日本、中国、台湾

シラン（紫蘭）は、日本の関東から沖縄、台湾、中国に自生するラン科の植物で、やや湿った岩の上や林に自生しています。

育てやすいランで、見かける機会は多くありますが、野生種は準絶滅危惧種に指定されています。シランは地表すれすれから地下に、丸く平らな「バルブ（偽球茎）」と呼ばれる水や栄養分を貯蔵するタンクをいくつも連ねています。そのバルブから、春に新芽と葉を伸ばし、30～100cmの草丈に生長して花を咲かせます。

## ■シランの育て方

シランは古くから日本に自生しているため、日本の気候に適応しており、手間をかけずに育てられる花です。

植える場所としては、日当たりのよい場所を好みます。多少の日陰でも問題なく育ちますが、あまりに日が当たらないと花付きが悪くなる場合があります。また、冬は、地面が凍らなければ戸外で大丈夫ですが、霜が降るようなら、株元を腐葉土で覆うようにすると安心です。

苗を植えつけるには、4～6月か、9～10月が適期です。鉢植えの場合は、苗よりも1回り大きな鉢を選んで植えます。鉢植えでも地植えでも、バルブの頭が隠れる程度の深さに植えるのがポイントです。

## ★シランのタネまき

シランは通常は、苗を植えて育てますが、タネまきもできます。タネは市販されていないので、花の後に付ける実からタネを採取して育てていきます。タネまきは、9～11月が適期です。

ラン科の植物は、特定の菌の助けがないと発芽しない特性があります。そのため、菌の多い親株の株元にタネをばらまくようにします。夏頃に発芽し、2～3年もすると花を咲かせるまでに生長します。

